



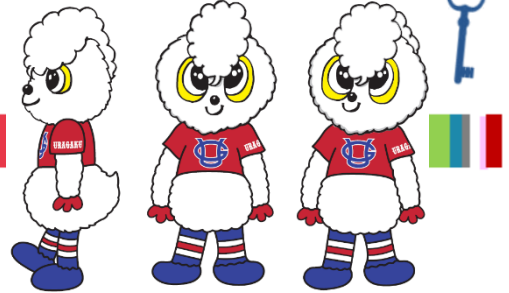
Life skill education

Health & Safe Promotion School

International culture



浦和学院 高等学校広報・企画局 編集  
2016.4.14 ★ vol. 5



## Topics 新入生への校長講話



新1年生1,017名のオリエンテーションにおいて、校長講話の時間が設けられた。大規模校、大人数であっても、生徒一人ひとりの個性を活かした多様性が「浦学の売り」である。



従来の国際教養・ライフスキル教育の浦学に、**学習効果・進学実績の向上**が再認識され、「21世紀型浦学教育」の取り組みが展開される。小沢校長自らがレジュメを作成し、生徒に問いかける。

# 2016 年度新入生への校長講話（レジュメ）

浦和学院高等学校校長 小沢友紀雄

## 浦学の教育が目指すもの

- \*常に前向き、そこに夢と希望に満ちた明るく開けた学園。
- \*今までに素晴らしい作品が沢山ありますが、どれが最高の作品ですか？  
と問うたら、答えは唯ひと言「The Next One」。(チャップリン)
- \*壁にぶつかったらチャンスだと思え。
- \*壁を乗り越えるのに必要なライフスキル：WHO の定義、「日常生活で起こる種々な問題や要求に対して建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」
- \*非認識スキルと認識スキル  
ライフスキル (Life skills)、生きる力、非認識スキル (Non-cognitive skills)。  
vs 認識スキル (Cognitive skills) (IQ, Achievement test)
- \* <WHO が定義したライフスキル 10 項目>  
自己認識 Self-awareness  
共感性 Empathy  
効果的コミュニケーションスキル Effective Communication Skills  
対人関係スキル Interpersonal Relationship Skills  
意志決定スキル Decision Making Skills  
問題解決スキル Problem Solving Skills  
創造的思考 Creative Thinking  
批判的思考 (クリティカル思考) Critical Thinking  
感情対処 Coping with Emotions  
ストレス対処 Coping with Stress  
ライフスキルは知識のみでは育まないまた評価が難しい
- \* Life skills ( non-cognitive skills) は Cognitive skills の形成に一役かっているのみならず、将来の年収、学歴、就業形態などの労働市場における成果に対しても多大な影響をもたらすことが Evidence based で明確になってきている  
(Heckman J, et al. The Myth of Achievement test: The GED and the role of Character in American Life. University of Chicago Press, 2014)
- \* 問題解決型教育の基本的行動：何を感じ、何を考え、何を行動するか？
- \* 東日本大震災に対する本校独自の支援活動：石巻・東松島交流プロジェクト  
園児たちの足のサイズを測り、足に合った靴を贈る



- \* 必要な感性：花は美しい、月も美しい、それに気付く心が美しい。
- \* 世界のあるところにそれは美しいみずうみがあった。そのみずうみのほとりに一個のベンチがあった。貴方なら、何を感じ、考え、実行しますか？
- \* 他国の人の世界地図のみかた。日本人。アメリカ人。中国人。
- \* 急がず、止まらず。
- \* 私が（浦学が）最も忌み嫌うのは、自分の至らなさを他人のせいにして卑劣な考えや行動をとること。至らなくても精一杯努力したら頑張る仲間であり、浦学生として立派な仲間である。
- \* 頑張る仲間：人間の価値はそれを成したからではなく、成すために如何に努力したかにある。そのような仲間が頑張る仲間なのだ。そして浦学は「頑張る仲間を皆で応援」する学校なのだ。
- \* 仲間を応援する素敵な笑顔のある学校

- \* 世界にはいろいろな場所がある。そこでは普段感じたり、考えたり、行動したりすることがない思いもかけないことがあるかもしれない。  
己を知り、日本を知り、世界の多様性に触れると、君たちの人生は大きなひろがりを見せるに違いない。国際教養の浦学・ライフスキル教育の浦学はそれを目指している。
- \* 私の国際的多様性の経験はアマゾン流域から始まり、後年のシルクロードへと展開していった。アマゾンの支流のネグロ川河畔のタバチンガ近辺でのワニ狩り参加は人生を変える経験だった。
- \* 好奇心は多様性に触れるチャンスを増加させる。
- \* ライフスキルの育成に効果のある問題解決型意識。
- \* その行動パターンは？  
「何を感じ、何を考え、何を行動するか。」私はいつもフライパン、炊飯器、国宝米を持参してUSAをドライブした。  
最も難しいのは「何を感じ」の部分の育成である。  
国際的多様性に接するとより多くのセンサーが開き、より多くの感覚が目覚め、より広い世界が開ける。
- \* 時間の流れを感じた場所：それは私だけの感性の世界かもしれない。  
ジュンガル盆地に佇むと、時間の流れを感じる。
- \* 私の人生で車から見た最多、最長の風景：単調？ しかし、私は飽きなかった。
- \* オスロ美術館でみたムンクの「叫び」のショック。
- \* 思いやり：ポーリンウッドアパートメントにジョウという少年がいた。  
彼の誕生日のワンデッシュパーティに、三十人ほどの子供と大人が招かれた。  
母親はみなの前で、ジョウがどんなに素晴らしい人間かについてスピーチした。「わたしにとってジョウは世界の何事にも変えがたい宝ものなんです。」ジョウは身体障害者だった。「ハイ、ジョー！」「ファインデイ、ジョウ！」小さなジェントルマンたちは彼を見かけると必ず声をかけ、当たり前のように車椅子を押した。母親の愛情が皆の思いやりを育てているのを感じた。
- \* 浦学ハロウインを作ってみよう！
- \* ロングドライブ：私はいつもフライパン、炊飯器、国宝米を持参してUSAをドライブした。
- \* 後年、シルクロードの天山北路・天山南路・西域南道の三つを約30年間で、10万キロを越える車の旅を経験した。実に多くの普通でない経験に恵まれた。それは間違いなく私の感性を高めた。
- \* 留学の推進が日中国際共同研究を実現。シルクロード少数民族の長寿と短命をめぐる新疆医科大学との日中共同研究を実行。
- \* 約30年にわたり新疆医学院からの留学生を教育し、現在は西域最大の新疆医科大学へ発展した。長年の交流が多くの成果を作り上げた。
- \* 大平原の広さと雲の流れに息を呑む（カザフ族の居住地パリクン）。平原の彼方に天山山脈を望む。日中国際共同研究団スタッフ 1998年パリクンにて。
- \* 国際交流の推進、建設的な交流を！
- \* 古代王国のミイラ「楼蘭の美女」を塑像で再現。
- \* 当校の一人の生徒の質問がカンボジア国会議員のシンナム氏の心を動かし、当校の生徒5人をカンボジアに招待した。何故それが実現したか？  
そのバックグラウンドを理解できることが重要だ。シンナム議員は生徒に接し、「感じ、考え、行動」したのだ。
- \* 当校にはカンボジア交流プロジェクトがある。
- \* カンボジアの悲劇：1975年～1979年にかけて、クメール・ルーージュは当時のカンボジア国民の約四分の一にあたる推定200万人を、処刑、飢餓、病気、強制労働によって組織的に殺害した。中略、あなたがこの時代のカンボジアに生まれていたら、これはあなたの歴史になったかもしれない。(ルオン・ウン)
- \* 何故そのような時代があったのかシンナム議員でも理解できないことがあったに違いない。1975年4月17日、カンボジアではクメール・ルーージュ（赤いクメール）と言われたポルポト派により恐るべき恐怖政治が始まった。それから丸4年間、狂気と破壊、殺戮と憎悪の嵐がこの国に吹き荒れたのである。1976年、ポルポトが首相に就任して地方で大静粛を始め、徹底的な国家改造を行う。彼が目指したのは資本主義の要素を全て否定した「原始共産主義社会」であった。彼は自らの政治体制の矛盾を見抜き得るインテリ階級を極度に恐れ、弾圧した。プノンペンには飢餓と疾病、農村への強制移住によりゴーストタウンとなり、医師や教師を含む知識階級は見つければ再教育の名目で呼び出され殺害された。メガネをかけているもの、文字を読もうとしたものなど、少しでも学識がありそうなものは片端から収容所に送られ殺害された。無垢で知識が浅い子供が重視され、解放直後は14歳以下が国民の85%も占めていた。
- \* カンボジアでは未だ貧困・事故・疾病などに起因する孤児が多い。孤児院では入所者の孤児たちから歓迎の踊りが披露された。
- \* カンボジアのシンナム議員が来校：吹奏学部がカンボジア国歌を演奏して歓迎。シンナム議員は生徒の皆さんの歓迎に感激し、情熱を持って生徒の皆さんに接し話をした。「いくら言葉で説明しても伝えられないことが沢山ある。

私自身が理解できないこともある。若い将来のある生徒の皆さんたちにカンボジアに来て、それらに接し、何かを感じて欲しい。」そう願ったのだ。

こうして招待を受けた5人の生徒たちと教職員がカンボジアを訪問した。

- \*カンボジアの地で、出逢った多くの子供たちは、将来への「夢」や「希望」に満ちあふれたきらきらと輝く凛とした瞳の輝きを持っていた。カンボジアは大きなマイナスを夢と希望を持って大きなプラスに変えようと歩んでいる。我々は自分たちが如何に恵まれているかを知るべきである。
- \*大切な浦学ファミリー意識の向上、頑張る仲間を皆で応援、浦学ファイヤーレッズの結成、甲子園を染めるファイヤーレッズの赤。精魂を込めた一球を見つめる大きな絆の力、甲子園で一体となって頑張る仲間を皆で応援。浦学ファミリーの実現。
- \*浦学初 V！この瞬間に新たな世界が開き、新たな挑戦が始まる。第85回記念選抜高校野球大会優勝で浦学の心が一つになった！
- \*浦学ファイヤーレッズは何処から来た？  
UNCファミリーから「浦学ファミリー」の発想を展開。ノースカロライナ全体がUNCファミリー老若男女がカロライナブルーで「頑張る仲間を皆で応援」。カロライナブルーとUNCロゴマークもUNCファミリーのため。  
\*浦学正式ロゴマークとキャラクターを制定。
- \*浦学の環境の改善を促進する。学校の環境が綺麗であること、生徒の笑顔が素敵なこと、生徒の声が元気で明るいこと、品格を感じさせること、勉学の環境向上を推進。
- \*「浦学の泉」のある公園ラルクが完成。浦学ファミリーの絆のシンボル「浦学の泉」完成。UNCのOld Well(古井戸)のモニュメントを意識して作る。
- \*浦和学院高等学校の教育の基盤を確立するために重要なHealth & Safe Promotion。浦和学院高等学校は、人の生命の尊さを教え、生徒一人ひとりの健康と安全を推進するHealth & Safe Promotion Schoolであることを宣言し、学業および将来の社会生活において想像以上のより良い未来を拓くための基盤を確立する。安全対策においては、国際安全校(International Safe School)認定を目指す。
- \*UNCから「頑張る仲間を皆で応援」そして「浦学ふぁみり〜」の精神を取り入れる。
- \*米国最初の州立大学、ノースカロライナ大学チャペルヒル校(UNC)の環境を紹介。
- \*恩師Craig教授(心臓病の世界的権威)の教え：聴診器で心臓の雑音だけを聞くな、その患者さんの心の叫びを聞け。
- \*悩めるものに、光明を-----そして大きな思いやりの心と、常に前向きな姿勢を！
- \*ライバルとの論争は多くの人々に私の研究を印象づけるのに成功した。
- \*学問の世界にも「頑張る仲間を皆で応援」、その他あらゆるところに存在する言葉である。
- \*当校のライフスキル教育を推進した東日本大震災：本校独自の支援活動を展開した。石巻交流プロジェクトは浦和学院高等学校のライフスキル教育として、「何を感じ、何を考え、何を行動するか」の問題解決型教育の手本となった。
- \*国際教養の浦学の推進：姉妹校提携、部活動での活躍、交換留学、修学旅行、

\*カンボジア交流プロジェクト

\*非卒業率をどこまで下げることが可能か？

校長になったとき(8年前)の目標が5.0%以下。

＜浦学の非卒業率の推移＞

平成20年度卒業生	6.2%
平成21年度卒業生	5.8%
平成22年度卒業生	5.7%
平成23年度卒業生	5.6%
平成24年度卒業生	4.5%
平成25年度卒業生	4.2%
平成26年度卒業生	3.0%
平成27年度卒業生	2.6%



## 21世紀型浦学教育の推進

(生徒一人ひとりの健康と安全第一を背景に)

国際教養・ライフスキル教育の浦学 + 学習効果・進学実績の向上

= 21世紀型浦学教育